各 校 詳 細 資 料

訪問調査校の評価

(1) 桜丘高校(訪問調査日:平成 25 年 6 月 11 日)

訪問調査担当者： 小松　郁夫、落合　優、栗原　秀泰、永野　和行

桜丘高等学校の概要

創　　立： 大正１５年１１月

住　　所： 横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘二丁目１５番１号

学 校 長： 浅見　敏雄

課 程 等： 全日制課程　普通科

クラス数： ２２クラス（１年８クラス、２年７クラス、３年７クラス）

生 徒 数： ８７０名（１年３１６名、２年２７８名、３年２７６名）

１　■　横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

観点	「選ばれる高校づくり」のための 10 の重点施策を推進しているか	
評価	(A)(満足)　B（概ね満足）　C（要努力）	(A)(満足)　B（概ね満足）　C（要努力）
	A（満足）(B)(概ね満足)　C（要努力）	A（満足）(B)(概ね満足)　C（要努力）
所見	○「選ばれる学校づくり」のための重点施策について取組状況は順調である。とりわけ、「学力向上および進路指導の充実」、「大学との連携拡充」、「キャリア教育の推進」について、取組の進捗が顕著である。現状に満足せずに、更に成果を挙げることを期待する。 ●大学との連携は大切なので、連携している大学への進学者数が少ないことに対して、しっかりと分析・検討をしてほしい。	
観点	「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか	
評価	(A)(満足)　B（概ね満足）　C（要努力）	(A)(満足)　B（概ね満足）　C（要努力）
	(A)(満足)　B（概ね満足）　C（要努力）	(A)(満足)　B（概ね満足）　C（要努力）
所見	◎特色ある学校の使命に関わる「進学指導重点校として、潜在能力を伸ばし、高い学力を育てます」への取組も順調である。進学に関する具体的目標の設定等、直接的な進学指導ばかりでなく、生涯を見据えた進路指導への配慮や、学業と部活動など高校生活全般との調和についても目が向けられ、健全な進学指導の実現が図られている。 ●社会でのリーダーとしての基礎力涵養を期待する。	

２　教育活動の状況

項目	■　教科指導	
観点	**生徒の実態を把握し、身に付けさせたい学力の定着を図るための適切な指導を行っているか。教職員は授業力向上に努めているか**	
評価	A（満足）Ⓑ（概ね満足）C（要努力）	Ⓐ（満足）　B（概ね満足）　C（要努力）
	A（満足）Ⓑ（概ね満足）C（要努力）	A（満足）　Ⓑ（概ね満足）　C（要努力）
所見	◎教科指導については、生徒からの評価も高く充実したものとなっており、早朝の学習支援、休暇中、入学試験期間中における講習・補習の実施、自習室の充実と生徒の学習課題の設定など工夫した取組を進めている。また、勉強合宿の検討など学力の定着へ向けた取組も行っている。 ●生徒のコミュニケーション能力を育てるためにICTを活用するなど教え込み型ではない方法を工夫し授業改善を図ってほしい。 ●新しい学問や知らないことを知る素晴らしさが感じられる魅力的な授業を目指してほしい。さらなる授業研究の充実を期待する。	

項目	■　進路指導	
観点	**進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか**	
評価	Ⓐ（満足）B（概ね満足）C（要努力）	Ⓐ（満足）　B（概ね満足）　C（要努力）
	Ⓐ（満足）B（概ね満足）C（要努力）	Ⓐ（満足）　B（概ね満足）　C（要努力）
所見	◎進路指導の中核となる進路指導部の体制を変更し、進路指導の充実に向け取り組んでいる。また、教育メンタルトレーニングやそれに向けての研修会の実施など、生徒の総合的な育ちについても十分配慮されている。学校全体での取組へと発展している様子が窺える。	

項目	□　教育課程	
観点	**学校の実態、課程や学科の特色を十分考慮した教育課程の編成がされているか**	
評価	Ⓐ（満足）B（概ね満足）C（要努力）	Ⓐ（満足）　B（概ね満足）　C（要努力）
	Ⓐ（満足）B（概ね満足）C（要努力）	Ⓐ（満足）　B（概ね満足）　C（要努力）
所見	◎教育課程の運営上の課題を確認、その対応、指導計画の工夫など積極的に取り組んでいる。	

＜保健指導及び環境美化＞

◎学校における環境整備については、おおむね良好である。校舎の構造など物理的な制約も多々あるが、空きスペースの整備等を行いさらに改善を図ってほしい。

３　学校経営の状況

項目	■　組織運営及び教職員研修	
観点	教職員が意欲的に業務に取り組める組織である。また、課題解決のための教職員研修が行われているか	
評価	Ⓐ（満足）　B（概ね満足）　C（要努力）	Ⓐ（満足）　B（概ね満足）　C（要努力）
	Ⓐ（満足）　B（概ね満足）　C（要努力）	Ⓐ（満足）　B（概ね満足）　C（要努力）
所見	◎教職員組織については、校務分掌の整理、委員会数の削減、会議時間の短縮など組織、運営の両面で取り組んでおり、その目的が「生徒に向き合う時間の確保」として位置づけられている。教育目標の達成に関わる情報についても教職員間でしっかりと共有されている。 ◎授業評価や授業公開週間を実施して教職員の授業力向上に努めている。 ◎教職員研修については、校内研修、校外研修の双方で積極的な取組がなされている。	

項目	■　保護者・地域等との連携協力	
観点	学校から教育活動についての情報提供を行い、保護者及び地域との協力体制があるか	
評価	Ⓐ（満足）　B（概ね満足）　C（要努力）	Ⓐ（満足）　B（概ね満足）　C（要努力）
	A（満足）　Ⓑ（概ね満足）　C（要努力）	Ⓐ（満足）　B（概ね満足）　C（要努力）
所見	◎保護者、地域との連携については、ＰＴＡ活動や、「桜高 week!」、「学園通りコンサート」、地域や近隣小・中学校との連携、部活動生徒による地域ボランティアなどの取組がなされている。	

項目	□　教育目標等の設定・実施	
観点	教育目標が生徒や学校の実態を踏まえた内容であり、目標達成に向けて教職員は意欲的に取り組んでいるか	
評価	A（満足）　Ⓑ（概ね満足）　C（要努力）	Ⓐ（満足）　B（概ね満足）　C（要努力）
	Ⓐ（満足）　B（概ね満足）　C（要努力）	A（満足）　Ⓑ（概ね満足）　C（要努力）
所見	◎学校教育目標が明確に設定され具体的な取組を行っている。それが、教職員はもとより、生徒・保護者にも集会・ＰＴＡ便り・ＨＰなどで周知されている。目標の共有を促進し、連携を深めることが期待される。	

＜学校に関する情報公開＞

◎学校に関する情報公開については、改善が進んでいる学校ホームページ、学校便りなどの手段で積極的に進められている。

●第三者評価を学校の強みとして発信することに活用し、中学生が入学したいと思われる学校にしてほしい。

4　総合所見

◎「進学指導重点校として、潜在能力を高め、高い学力を育てる」という使命に向け、教育課程と教科指導の改善を図っている。また、教職員組織の改組や教職員研修の促進など積極的な取組が進められている。さらに、進学指導重視で、ともすると陥りがちな受験対策一辺倒なあり方でなく、部活動や学校行事、地域貢献など幅広い視野で生徒の健全な育成をめざしている。
◎学校の使命の中に記載されている目標の達成を、明確に、実際的に目指している桜丘高校の教育実践の進展は大いに期待できる。
●大学入試改革の新しい動向をも意識し、知識基盤社会やグローバル化社会で求められる「確かな学力」の一層の充実・育成を目指し、リーダー的な生徒の育成と潜在的に能力や才能を秘めている生徒の伸長を実現してほしい。
●桜丘高校の取組（SP36）を活用し、学校改善をより積極的かつ具体的に推進されることを期待している。

(2) 横浜商業高校(訪問調査日:平成 25 年 6 月 12 日)

訪問調査担当者：　植田　みどり、田代　正樹、細山　洋子

横浜商業高等学校の概要

創　　立：　明治１５年　３月

住　　所：　横浜市南区南太田２－３０－１

学 校 長：　山本　一夫

課 程 等：　全日制課程　商業科・国際学科

クラス数：　２１クラス（１年７クラス、２年７クラス、３年７クラス）

生 徒 数：　８２３名（1年２７５名、２年２７５名、３年２７３名）

１　■　横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

観点	「選ばれる高校づくり」のための 10 の重点施策を推進しているか	
評価	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）
	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）
所見	◎重点施策項目についてはそれぞれ良く取り組んでおり、商業高校としての使命を自覚しながら生徒の自己肯定感などを育んでいる。また、商業科と国際学科それぞれの特色を活かし、多様な進路選択の機会を提供するためのキャリア教育を行い、就職だけでなく進学実績も上昇している。 ◎商業科の中に YBC クラスを設置したり、平成 26 年度からはスポーツマネジメント科が新設されるなど、今後も商業高校としての新たな可能性を開発する可能性があり、今後のさらなる成果に期待したい。	
観点	「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか	
評価	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）
	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）
所見	◎商業科、国際学科と性格の異なる二つの学科をうまく共存させている。生徒たちも学科の雰囲気や取組の違いを良く理解しており、極めて良好に運営されている。 ◎施設・設備及び人的配置についても同校の特色を最大限に発揮できる体制が整っている。さらに伝統校として地域からの信頼も厚く、地域との連携協力を構築する基盤も十分にある学校と言える。 ●ただし、横浜商業高校としての商業科の特色や成果が外部には十分に伝わっていない。商業科は同校の“本丸”として要となる学科であるので、もっと「Ｙ校」としての商業科の特色を示し、国際学科、そして平成 26 年度からのスポーツマネジメント科と共に 3 つの柱として「Ｙ校」の特色を示した教育活動を展開することを期待したい。	

２　教育活動の状況

項目	■　特別活動・部活動	
観点	生徒は主体的・自立的な活動を行い、学校は活動の活性化に努めているか	
評価	A（満足）Ⓑ（概ね満足）C（要努力）	A（満足）Ⓑ（概ね満足）C（要努力）
	A（満足）Ⓑ（概ね満足）C（要努力）	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）
所見	◎野球部、卓球部、吹奏楽部、書道部など運動系及び文化系共に全国及び関東大会レベルの実績を有する部があり、生徒は積極的に取り組み、文武両道に励んでいる。 ◎校内の状況や活動実績から、生徒それぞれが学校生活を主体的に送っている状況が窺われ、生徒会活動や部活動での意欲的な取組が学校の雰囲気全体を活力あるものにしている。伝統校として積み上げてきた成果や実績が生徒たちの誇りとなり新たな目標にもなっている。 ●勉強と部活動の両立は大変だが、学校・教職員は生徒たちの相談にのるだけでなく、活動する時間を浪費させぬよう助言することが必要である。	

項目	■　進路指導	
観点	進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか	
評価	A（満足）Ⓑ（概ね満足）C（要努力）	A（満足）Ⓑ（概ね満足）C（要努力）
	Ⓐ（満足）B（概ね満足）C（要努力）	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）
所見	◎生徒に対して多様な進路選択の機会が提供されるような進路指導及びキャリア教育が展開されている。進路指導室及び廊下にも進路に関する情報や卒業生の進路実績を掲示するなど、生徒に対して常に意識を啓発する取組もなされている。また、明確な将来像を持った生徒もおり、進路指導の成果が現れている。 ◎1年次から目的意識を持った取組がなされ、自分の個性や特性を生かした進路決定ができている。 ●生徒一人ひとりのキャリアプランづくりを３年間かけてじっくりと取り組み、生徒の進路希望において経年変化していく将来像作りに向けた的確なフォローをしてほしい。	

＜教科指導＞

●全教職員が部活動の顧問をしている一方で、授業力の向上が課題となっている。多忙感のある中、授業準備や教材研究等の時間の確保、研修の機会を保障するなど授業力向上の取組が必要である。

３　学校経営の状況

項目	■　教育目標等の設定・実施	
観点	教育目標が生徒や学校の実態を踏まえた内容であり、目標達成に向けて教職員は意欲的に取り組んでいるか	
評価	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）
	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）
所見	◎教育目標については保護者と生徒に一定の理解を得ながら、その具現化に向けた実践が行われている。 ●教育目標達成に向け、教職員間での課題意識の共有は出来ているものの、その課題解決のため保護者や地域を巻き込んだ取組までには至っていない。現状をさらに発展させていくためには、保護者や地域の理解と参画意識を啓発し、実践していく必要がある。	

項目	■　保護者・地域等との連携協力	
観点	学校から教育活動についての情報提供を行い、保護者及び地域との協力体制があるか	
評価	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）
	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）	A（満足）B（概ね満足）C（要努力）
所見	◎隣接する南太田小学校の生徒に英語を教えに行ったりするほか、地域の清掃活動、近隣商店街でのボランティア活動、南区のお祭りへの参加など様々な地域活動を行っている。 ●「Ｙ校」の知名度を生かし、市内の様々な商店街とのタイアップ企画に挑戦したり、国際学科では市内在住の外国人の生活支援に取り組むなどもう一歩踏み込んだ横浜商業らしい地域連携活動に取り組んでほしい。 ●保護者も共に学校教育を支える立場として捉え、教育活動の具体や生徒の状況などを積極的に広報することが重要である。アンケート結果によれば、学校の情報などが生徒から保護者に十分伝わっていない状況も散見され、情報発信の工夫や連携協力体制の構築に期待したい。	

＜学校に関する情報公開＞

●在校生と保護者への周知にとどまらず、横浜商業を目指す中学生や中学校教員に対しても一層の周知を図ることが、次につながる取組として重要である。

４　総合所見

◎長い歴史の中で育まれた伝統や良きしきたりが代々引き継がれており、挨拶など社会活動の基本が自然と表現できる学校である。その伝統を守りながらも、時代の変化やニーズを見据え柔軟なシフトを敷きながら進化させるなど新しい変革も進められていることに、学校としての進化が感じられる。高校教育は、生徒たちの期待に応えることだけでなく、社会のニーズにも応えるべき人材育成の場としての役割があり、その視点がしっかりと学校経営に反映されている。

●アンケート結果では、保護者の学校生活等に対する評価が生徒による評価と比べ低い。保護者と教職員との座談会を開催するなど相互理解と改善に向け取り組んでほしい。

(3) 戸塚高校（訪問調査日：平成 25 年 6 月 26 日）

訪問調査担当者：　坂野　慎二、田中　時義

戸塚高等学校の概要

創　　立：　昭和　３年　３月

住　　所：　横浜市戸塚区汲沢 2-27-1

学 校 長：　稲村　誠一

課 程 等：　全日制課程　普通科

クラス数：　２２クラス（１年８クラス、２年９クラス、３年７クラス）

生 徒 数：　９４７名（１年３１７名、２年３５４名、３年２７６名）

１　■　横浜市立高等学校教育振興プログラムの推進状況

観点	「選ばれる高校づくり」のための 10 の重点施策を推進しているか	
評価	A（満足）Ⓑ（概ね満足）　C（要努力）	A（満足）　Ⓑ（概ね満足）　C（要努力）
所見	◎国際教育の推進やキャリア教育の推進に向けた取組が進められている。 ●単位制におけるガイダンスは、進路実現と結びついた科目選択という視点も重要で、自主的に科目を選択したという意識は学習への意欲にも結びつき、自主・自立の精神を養い、自己実現に向けて学びの姿勢を確立することにつながるのでその意識を忘れずにガイダンスの充実を図ってほしい。	
観点	「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか	
評価	A（満足）　Ⓑ（概ね満足）　C（要努力）	A（満足）　Ⓑ（概ね満足）　C（要努力）
所見	◎音楽コースではプロジェクトチームを結成し、開設準備が着実に進められており、新たな「戸塚高校」の魅力としての検討が進められている。 ●施設の改修などを含め、普通科の中での音楽コースとして、入学者受け入れ、教育課程、卒業後の進路を合わせて計画を進めていってほしい。 ●一般コースが学力向上、音楽コースが芸術的資質と能力の育成というそれぞれの目標は踏まえつつ戸塚高校の教育目標である「自主・協励・連帯」のもとに２つのコースを設置する戸塚高校全体としてのミッションを明確にすることが必要である。 ●教育課程編成上の問題もあるが、前期・後期で履修科目が変わるような制度が可能かどうか、また一般コースも含め音楽コースの良さを享受できるような方策について検討してほしい。	

２　教育活動の状況

項目	■　教科指導	
観点	**生徒の実態を把握し、身に付けさせたい学力の定着を図るための適切な指導を行っているか。教職員は授業力向上に努めているか**	
評価	A（満足）B（概ね満足）　C（要努力）	A（満足）B（概ね満足）　C（要努力）
所見	◎模擬試験などの活用により、生徒の学力状況を把握し、生徒の学習への意欲を向上させる取組がなされている。特に、早い段階から、徹底した振り返りを行うことにより、学習への意欲が高まっている。今後、振り返り結果から、生徒にどのような行動、活動が生まれてきたかということについても把握し、適切な指導に生かしてほしい。 ●授業改善は学校全体をあげて、単にどのような進路実績であったかということではなく、現状の生徒の状況を踏まえた上で、どのような力をつけることが必要かという視点から目標を設定し、授業改善のテーマを共有化して取り組むことが必要である。そのため、学校全体の目標に照らした「年間指導計画」の作成、組織的な授業改善の取組計画を意識して進めることが求められる。 ●若い教職員が増加傾向にあるので、世代間での交流を深め、授業研究を進めてほしい。 ●授業理解度が低いというアンケート結果に対する授業改善が不十分である。	

項目	■　生徒指導・教育相談	
観点	**生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて教職員一丸となって取り組んでいるか**	
評価	A（満足）B（概ね満足）　C（要努力）	A（満足）B（概ね満足）　C（要努力）
所見	◎生徒指導の取組については、規範意識を高めるための地道な対応が行われており、生徒も節度をもった生活を送っている。また、教育相談の取組も進められており、相談活動により改善がみられる生徒がでてきている。 ●今後、ケース会議のような組織的な取組を充実することにより、課題の共有化を図り、チームで対応することや外部関係者との連携を強化していってほしい。	

＜特別活動・部活動＞

◎吹奏楽を中心とした部活動も盛んである。今後も学校の活力として指導を継続してもらいたい。

＜進路指導＞

◎入学する生徒の学力がここ 10 年程で高くなってきたことに対応できるよう、進路指導の体制づくりが進められている。今後取組を急ぐ必要がある

●個人の学習時間の管理は、試験前だけではなく短期間でも平常時に行うと効果がある。

●進学状況の分析をするときに、大学合格者数を延べ数で分析するのではなく、第三希望くらいまでをひとくくりにして進路希望の達成状況を見るとよい。

3　学校経営の状況

項目	■　組織運営及び教職員研修	
観点	教職員が意欲的に業務に取り組める組織である。また、課題解決のための教職員研修が行われているか	
評価	A（満足）Ⓑ（概ね満足）C（要努力）	A（満足）Ⓑ（概ね満足）　C（要努力）
所見	◎校長の方針が浸透してきており、学校経営にかかる組織についても、一定の整理がなされてきている。 ●校内での研修において、最終的に「戸塚高校」をどのような学校としていくかという基盤となる理念を共有化する取組を行うことによって、個に頼りがちな運営の改善につなげてほしい。	

項目	■　保護者・地域等との連携協力	
観点	学校から教育活動についての情報提供を行い、保護者及び地域との協力体制があるか	
評価	A（満足）Ⓑ（概ね満足）C（要努力）	A（満足）Ⓑ（概ね満足）　C（要努力）
所見	◎保護者・地域等との連携については、多様な切り口から取組が進められており、保護者や地域から信頼される学校づくりが成果をあげてきている。 ●学校からの情報発信を隅々まで広げることは、どの学校でも難しいことである。学校の教育活動に関心を持っていただける方を広げる努力を地道に続けてもらいたい。	

4　総合所見

◎生徒は学習にも教科外の諸活動にも真摯に取り組み、学校としても生徒の支援をきめ細かく行おうとする姿勢を持っている。その中で、新たな特色づくりの取組も進められており、今後に期待する。
◎生徒の進路実現を図るため、進路目標を早い時期に意識させ、学習意欲を高める機会を体系化するなど生徒の適切な進路選択を促すシステムを構築している。
●生徒の学力が向上し大学進学者が増えている現状において教職員の授業力を育成することが必要である。学校全体で授業改善や授業研究のテーマを教職員が共有し、組織的に授業改善に取り組むことが重要である。
●現在、校内研修などが実施されているが、生徒の予習を促し予習を基盤とした授業方法の研究を進め学力を保証することが重要である。
●音楽コースについては施設の改修など財政による制約があるが、音楽コースのグランドデザインを明らかにし、将来像を明確に提示する必要がある。